

『家を建てるまで』 vol.1 (INCH の楽しい仲間たち vol.5)

前号の表紙にて、小菅村に家を建てる話を載せたのですが、進展があり、時間もそれなりに掛かるので、連載してみることになりました。私的なことでもありますが、自然文化誌研究会あってこそその小菅村生活なので掲載してみます(事務局)。

さて、土地交渉も無事に済みいよいよ本格的に始動しはじめた夢のマイホーム計画。黒澤家では役割分担を決めて行うことにしました。

黒: 土地交渉及び村内での情報収集。測量や登記など書類関係について担当。

東: 主に建築屋さんとのやりとりやログビルダーと相談、キッチンの手づくりなどを担当。

先日、黒と一緒に府中にあるログハウス屋さん(アペントさん)へ行ってきました。いろいろな希望を形にしてくださり、且つ非現実的なところはきちんとおこなっていただき、現在図面を書いてもらっているところです。

土地に関しては、隣町の測量会社さんを紹介していただきましたので話しが一気に進みそうです。

イメージでは 30 坪の平屋でしたが、建設中のログハウスを見せてもらい、相談の結果我が家は平屋の 18 坪のイメージへ変更。ネコにも人にも優しいお家ができるといいな。

前々から言っているように、ログハウスを建てます。ですが、山から伐ってきた丸太を使うのではなく、加工済みの「ログキット」を購入しようと考えています。

チェーンソー使わないなんてログじゃない・小菅の木を使わないなんて…! とは言わないで、なまぬる〜い目で見守ってやってください。ログキットはトレーラーではるばる小菅まで運ばれてきます。その材をログビルダーはじめ優しい仲間達の協力の下セルフビルドで建てようじゃないか! というのがおおまかな計画です。家を建てる前の基礎はお世話になっているキャンプ場オーナー(何でもできる)善さんが「やってやるよ」とかっこよく言ってくれました。また、漁協の源さんは建前用に餅をついてやるよ! と言ってくれました。その他、道を歩けば「家建てるんだって?うちの山の木使っていいよ」「小菅村に住んでくれてありがとう」「若い人が住んでくれるなんてね」などなどありがたい言葉ばかりです。

黒澤家、小菅村に住んでいけるのは、こんな暖かい土地だからと痛感しております! 体力に自信のある方、おもしろそうだと思う方、小菅の湯に入りたい方などなどわいわい楽しく家、建ててみませんか? ?

次号では本格始動したスケジュール等が載せられると思います! 乞うご期待!! (はるこ)

土地交渉では、村の方にも協力していただき、スムーズに話しが進みました。不動産屋がある訳ではないし、素人なので、ネットで調べ、役場で教わりながら少しずつ話しを進めています。

「まずは測量と登記が必要」ということで、役場や近所の方に相談すると、普段から小菅に出入りしている、都留市の測量会社を紹介してもらいました。既に、見積書が手元に届いています。土地の境界の確認についても小菅独特で、測量会社さんは「あ、その人ももちろん知っているの、直接、連絡取れますよ」など、こちらもスムーズに話しが進みそうです。

測量会社に、測量～登記～契約書までお願いをします。ここは自力ではできなそうなので・・・。GW 明けには話しがまとまっていることでしょう。

先立つ物については、小菅村は「定住環境整備資金貸付」の条例があって、1000 万円を上限に、無利子で借りることができます。無利子分が補助ということですが、これを借りるために必要なのは、「見積書」。「見積書」のために必要なのが「設計図」。「設計図」がないと、「基礎」などの見積書も作れないということで、「設計図」が最優先なのが現状です。そのため、府中にあるログハウス屋さんを訪ねてきました。

一昨年ぐらいから嫁が、資料請求やインターネットでの検索をたくさんしていたのですが、この行動は本番に向けての書類審査をしていた訳で、土地の話が進んだ今、すぐに意中のメーカーさんを訪ねることができました。

早ければ、5 月中に材料の発注に入れるかも。発注してから 3 ヶ月で材料は届くもよう。夏明けには着工できるかも・・・というのが最速のスケジュールです。

内装や設備(風呂やトイレ)については、多くの方から、譲ってもらえる旨や、安く仕入れられる方法を教えてもらっています。上手く繋げていけば、楽しく家が建てられるかもしれません。

空き家が増えている小菅村。家を建てるなんて元々は思っていませんでしたが、ここまで決まったら、あとは進むだけだと腹を括りました。(くろさわ)